

東広島植物園における学生支援

塩路 恒生（広島大学 技術センター）

SHIOJI Tsuneo : Student support in the Higashi-hiroshima botanical garden

1. はじめに

東広島植物園は、技術職員が1名常駐し、教員や学生の研究・教育を支援するための施設として運営されている。学生に対しては、所属を問わず植物を学べる環境を提供している。近年、研究室に配属前の1,2年生にとって、情報収集とコミュニケーション作りの重要な場となってきている。

2. 東広島植物園の業務概要

温室・圃場等の施設管理を行いながら、研究・教育用植物の栽培及び提供をしている。学生を主な対象として、植物栽培に関する技術指導を行っている。さらには、生態実験園を中心として学内の自然環境において、生物保護への試みを実践している。

3. 学生との関わりと支援

(1) キャンパスの植栽樹木調査

【樹種同定の知識習得と樹木管理の手法を習得】

2020年6月～2022年6月までの2年間で、樹木調査を53回実施し、167種6,534本の樹種を同定、胸高直径の測定を実施した。調査した樹木の情報は、QGISを用いて記録した。主要な樹木115種713本及びサクラ61品種160本にネームプレートを取り付けた。24回実施したプレート作業には、あわせて19名の学生参加があった（写真1）。



写真1. 植栽樹木調査

(2) キャンパス内希少種の保全・外来種の駆除

【環境保全を実践しながら考える】

広島大学東広島キャンパスには2,000種近くの動植物が生息し、そのうち100種を超える絶滅危惧種が確認されている。この貴重な環境を維持するために、希少種自生地の整備を毎年実施している（写真2）。さらには生態系のかく乱を防ぐため、キャンパスや周辺に侵入した外来植物の駆除を行っている。



写真2. 湧き水湿地の保全作業

(3) 大学祭における施設公開

【企画の準備・展示解説からイベントの力が身につく】

毎年11月の大学祭にて施設公開を行っている。学生に受付と企画の実施について協力依頼している。この企画は地域との交流の場にもなっている（写真3）。



写真3. 施設公開での樹木クイズ

(4) 地域の保全活動

【中学生の授業の進めかたについて学ぶ機会を得る】

地域中学校の探求の学習として湿地保全を行っており、学生にも同行を依頼している。今年は、湿地植物の標本作りに、植物学専攻の学生4名から協力を得た。

(5) 観察会・自然体験

【イベントは、子どもとのふれあいを学ぶいい機会】

総合博物館と連携し、学生主体で企画運営を行う観察会を年1回実施している(写真4)。さらには、学内外から受け入れている自然体験に、多くの学生から協力参加がある。



写真4. どんぐり観察会

(6) デジタルミュージアム

【写真の編集・HP更新・解説文の作成】

広島大学では「エコミュージアム」という考え方の博物館を展開している。総合博物館をコアとして、キャンパス・地域へと広がる博物館である。デジタルミュージアムでは、地域に根ざした広島大学の教育・研究リソースを公開しているが、これらのコンテンツの充実において、学生ボランティア「キャンパススチューデント・レンジャー(CSR)」が活躍している。

(7) 植物栽培入門講座

【栽培する技術だけでなく楽しみや喜びも体験】

実際に植物を育てることにより幅広い知識を身につけ、講座で得た経験を今後の研究や教育に役立ててもらうことを目手に、2007年から実施している。講座には、トマトやカボチャなどを栽培する春コースと、ダイコンやハクサイなどを栽培する秋コースがある。講座では、ウメ酒や野草茶作り、たくわん作りや干し柿作りなど様々な体験を行っている。実習の最後には、試食会も実施している(写真5)。



写真5. 栽培実習・春コース作業

(8) 学生活動

【幅広い知識の習得から博学な人材が育つ】

毎週金曜日の午後、東広島植物園の部屋をCSR活動用として開放している。主な活動としては、前述のデジタルミュージアムのコンテンツ充実であるが、キャンパスの環境保全活動の拠点にもなっている。さまざまな専門分野を持った学生が集まり、情報交換をしている。

4. 学生支援から得られたもの

植物園に出入りする学生は、豊富な専門知識を持っており、学生から多くの生物に関する情報を得ることが出来ている。また、植物園の管理や活動において、学生の協力を得ることにより、業務の効率が非常によくなっている。年々、植物園を訪れる学生が増加傾向にあるが、学部を超えた多くの学生が植物園を利用することにより、施設の必要性・価値が高まってきていると思われる。

5. おわりに

社会生活を行う上で、人とのコミュニケーションは非常に重要だと考える。大学において、卒論研究を始めるにあたり、社会常識を正しく身につけておくことは、教員や大学職員、学生同士が円滑に関わる上での基本的、かつ重要な要素であると思われる。昨今、学生の生活スタイルも変化してきている中で、学生が集まり、教職員を始めとする多くの方々と交流する機会があることは貴重な体験であり、大学を卒業して社会に出たとき、植物園で学んだ多くの経験が役立つことを期待する。